福岡大学法科大学院
令和6年度A日程小論文試験
出題趣旨・採点基準

設問1（15点）

[出題趣旨]

問題文を分析し正確な読解や分析を行う能力、正確で分かりやすい文章表現力の程度を測定するものである。

【解答例】

キルケゴールに言わせると、不安とは、対象がはっきりしている恐怖と異なり、対象がわからない漠然としたものであり、人間には自由があるからこそ不安になるのであり、人間しか持ちえないものである。また、ハイデガーは、この世にポンと投げ出され、自由に選択していかなければならない人間存在の心情が不安であるとする。

筆者は、上記各見解に賛同し、例えば、選択の余地がないなら「どうしよう」と思うことすらないので、未知の世界に足を踏み入れる自由がある場合、不安を感じると述べている。
*設問文の中に筆者は他の哲学者の考え方を引用して説明しているとあるので、他の哲学者の考え方に触れる必要がある。

設問2（15点）

[出題趣旨]

設問1と同様。

【解答例】

不安解消法について、筆者は以下のように述べている。

1つは、信仰など何か信じられるものを持つことである。

また、究極の不安解消法としては、死を意識し、覚悟して生きることである。

しかし、提案したい解消法は、心に不安というものをはびこらせる隙間を別のもので埋め合わせる、具体的に言えば、別のことを考えるということである。

設問3 (30点)

[出題趣旨]

論理的思考が出来ているかを確認するとともに、文章表現の正確性・論理性・説得性・簡明性等を問う。

採点のポイントは以下のとおりである。

- ・自己の支持する不安解消法が示されていること。
- ・具体例が示されていること。
- ・その具体例が自己の支持する不安解消法として適切な事例であること。
具体例で示されている不安がこの文章における不安の定義に合っていること。
- ・自己がその不安解消法を支持する理由に説得力があること。

[解答例]

不安の解消法として、神仏に対する信仰に限らず、信じられるものを持つことは有効であると考え。例えば、試験の際の不安は、これまで実践してきた自分の努力やそれによって培われた実力を信じることでかなり解消される。

また、筆者の提案する別のことを考えるということも有効であると考え。例えば、司法試験に合格するだろうか、合格できなかつたらどうなるのだろうかという不安を抱いたとしても、勉強しなければ合格することはないのであるから、今日の前にある勉強を一生懸命頑張ろうと気持ちを切り替え、目の前にある課題に集中すれば将来に対する不安は少なくとも一時的には解消される。

しかし、別のことを考えても不安が解消されるのは一時的である。したがって、私は、不安の解消法としては信じられるものを持つことがより有効であるように考える。

[採点基準]

基本とする評価段階		設問1, 2 各15点配点	設問3 30点配点
S	(きわめて優れている)	14点以上	27点以上
A	(優れている)	12点	25点
B+	(平均的レベルをやや上回る)	10点	20点
B	(平均的レベルである)	8点	15点
B-	(平均的レベルをやや下回る)	6点	12~13点
C	(やや劣る)	4点	7~8点
D	(劣る)	2点	4~5点
F	(入学を認めることに問題がある)	0点	0点